

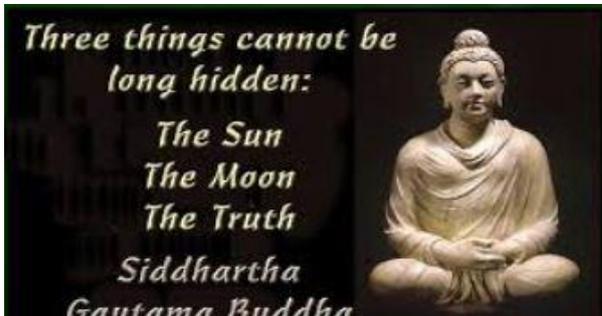
プーチンがワシントンに挑戦

【訳者注】プーチンは国連総会演説で、「あなたたちは自分のやったことを理解しているのか？」と、米と米従僕国に詰問した。こういう言い方で、世界の戦争屋たちを難詰したのは、プーチンが最初であろう。従僕国とそのメディアはどう言うか？「プーチンはひどい嘘つきですね、あいつが何と言おうと、我々は信じませんよ」そう言って、そのような新聞を発行するだろう。しかし、それがいつまで続くだろうか？ 良心をもつ人間が、いつまでもサイコパスたち（この言葉が今、世界を飛び交っている）と調子を合わせることはできない。遠からず我々は、「これ以上、世界の情勢に耐えることができなくなる」はずである。

By Paul Craig Roberts

October 2, 2015, Information Clearing House

「我々はこれ以上、世界の情勢に耐えることができない」——プーチン露大統領



「世に隠せないものが 3 つある——太陽、月、真理」——ゴータマ・ブッダ

今週水曜日、世界はロシアとワシントンの違いを見た。プーチンのアプローチは真理に基づくもの、オバマのそれは空虚な自慢とウソに基づくもの、そしてオバマはウソの種が尽き始めたことだ。

ウソ一色の時代に真理を述べることによって、プーチンは革命的行動に踏み切った。ワシントンが、中東、北アフリカ、それにウクライナにもたらした殺戮、破壊、混乱、および堰を切って出現した過激なジハーディスト勢力に言及して、プーチンはワシントンにこう訊ねた——「あなたたちは自分のやったことを理解しているのか？」

<http://www.informationclearinghouse.info/article42993.htm>

プーチンの質問は、Joseph Welch が、魔女狩り上院議員ジョゼフ・マッカーシーに訊ねた質問、「あなたには礼節 (decency) という感覚がないのか？」を思い出させる。ウェルチの質問は、マッカーシーのその後の没落のきっかけとなった。

おそらくプーチンの質問も、同じ衝撃を与え、“アメリカ例外 (特権) 主義” の支配を終わらせるだろう。

もしそうなれば、プーチンは、ワシントンへの世界の従僕根性を覆す革命を、軌道に乗せたことになる。

プーチンは、ロシアのシリア介入の合法性——シリア政府の要請によるという事実——を強調している。彼は、ロシアの国際法の順守を、ワシントンやフランスのシリアへの介入と比較している——後者の場合は、要請されない、かつ不法な軍事活動によって、シリアの主権を侵すものだ。

世界は、「国際法規を侵犯している」のはワシントンとその従僕であって、ロシアでないことを見て知っている。

ワシントンの自己奉仕的な、一方向的行動を背後に隠す、聖人ぶった唯我独尊思想が、誰にも見えるように暴露された。

ワシントンは、そのウソの兵器庫に依存している。ワシントンの、メディアを用いたニセ情報装置は、とうに耐用年数を過ぎている。BBC テレビの Reporter が、まだ後ろに立っているのがはっきり見える、世界貿易センター「第7ビル」の崩壊を、早まってアナウンスしたように、ワシントンのウソ報道機関は、「まだ我々の飛行機が飛び立ってもいないのに」ロシアの空爆の最初の市民犠牲者を報道した、とワシントンのニセ情報戦争をコメントして、プーチン大統領は言った。

ワシントンへの従僕主義の一つの結果として、ヨーロッパの傀儡国家は、自分たちが無思慮にも手助けした、ワシントンによる戦争からの、避難民に踏み荒らされている。ワシントンの従僕であることのツケが、ヨーロッパ人に回ってくるように、ヨーロッパの政党の立脚点も影響を受けるだろう。新しい党や支配連合が、ワシントンの傲慢と尊大さから流れ出る、膨大な過ちの代価から身を守るために、より独立した道を取るようになるだろう。

帝国の瓦解がいよいよ見えてきた。

